

北広島市長期総合計画審議会 第4回 産業・都市部会 議事録

■日 時 平成21年9月24日(木) 18:00~20:30

■会 場 芸術文化ホール活動室4

■出席委員

大木克夫委員(部会長職務代理)、麻生昌裕委員、遠藤智恵子委員、
小池隆史委員、鈴木康照委員、藤野伸之委員、吉田俊一委員

■欠席委員

伊藤寛部会長、穴田廣光委員、森國聡委員

■事務局

木下信司総合計画課長

1 開 会

出席者と配布資料がそろっていることを確認し、第4回産業・都市部会を開始した。

2 部会長あいさつ

【部会長代理】部会長が欠席のため、代理で進行させていただく。本日もお話しいただく内容は、主に「第5章」及び「都市像に関するキャッチコピー」についてである。

3 議 事

配布資料について事務局から説明した後、議事を開始した。

(1) 市街地整備について

【部会長代理】第5章の内容をたたき台にして話を進めていきたいと思う。まず、第1節の「市街地整備の推進」に関して、駅周辺やエルフィンパーク、市役所庁舎などについて付け加えることはあるか。

まず私から言わせてもらおうと、たたき台の内容は、駅周辺や東部地区の整備に片寄っており、その他の地区がなおざりになっている印象だが、どうか。

【委員】同感である。駅周辺に片寄っている。

【部会長代理】市の苦勞はその辺にあると思うが、市全体を見渡した総合計画にしていくべきではないか。

【委員】前提条件を1つおく必要がある。大曲や西の里では民間開発による大型商業施設の集積などがある。交通面などからみても、人の流れは札幌市と一緒になっている。これからは自然な発展を見守っていくというか、行政が何か手を加えていくということは難しい。民間による発展を誘導するという前提を置けばいいのではないか。

【委員】前回は発言したが、駅周辺は官主導で、大曲地区は民主導で開発が進められてきた。それを逆転する必要がある。すなわち、駅周辺については、官ではなくて、民の力が必要。逆に、大曲地区は比較的公共施設の整備が遅れているので、これからは官による整備が必要ではないかという気がしている。

【委員】市街地開発に関するブレーキとアクセルが必要である。大曲地区でインフラ整備が遅れているのであれば、官の対応を入れる。逆に、駅周辺で民間による推進力が必要であれば、法的な規制を緩和するなど、民が入りやすい誘導策をとることが必要ではないか。

【委員】官による受け皿づくりが必要だと思う。

【委員】いずれにしても何か誘導策が必要である。大曲や西の里は、何か足りないとこがあれば行政がサポートし、見守っていくことでいいのではないか。一番遅れているのはJ R北広島駅周辺なので、整備を急ぐ必要がある。前提条件としては、西の里や大曲には必要な部分に行政がサポートし、急ぐのはJ R北広島駅周辺の整備。市役所の移転も含めて、駅周辺を中長期計画に位置づける必要がある。

(2) 居住環境、道路、交通について

【委員】駅周辺で総合病院をつくる計画はあったのか。

【事務局】計画はない。

【委員】北広島団地が高齢化しているが、一番利便性のいい駅周辺に、総合病院の計画が出ていないのが不思議である。みんな札幌の総合病院に行っている。住民の要望として総合病院の話はでてこないのか。

【事務局】市で実施したアンケートでは、病院に関する声が多かった。

【委員】 病院、赤提灯、託児所、庁舎など、駅前はいろんな機能を持ちあわせるほうがよい。

【部会長代理】 北広島病院には内科、整形外科、循環器科、脳外科などはあるが、いわゆる総合病院ではない。民間がここで総合病院を経営するのは無理だろう。以前に、北広島病院を中心にして市内の医療機関を結び総合病院の機能を果たすことが検討されたようだが、なかなかうまくいかない。また、全道を見渡してみても、自治体の病院経営はほとんど赤字であり、議会の承認がとれないということで、私立病院も無理だろう。

【委員】 情報化を含めて、今お話にあったシステムは非常に重要だと思う。医療は北広島市内で完結していない。それで自立した地域行政と言えるのだろうか。

【委員】 大曲地区の住民は札幌の病院に行く。北広島中央地区などの住民は、北広島駅周辺の民間病院で対応できると思う。民間の力を駅周辺に導入したほうが良いというのは、そういうことを含めての話である。

【部会長代理】 旭川市や函館市など地方の中核都市は札幌から離れていて、ある程度の規模の病院が必要となるが、北広島市は札幌市に近すぎる。

【委員】 北広島市で足りない部分を他のまちに頼るのは自然の流れである。別にそれは悪いことではない。この部分に関しては札幌市に依存するが、この部分については北広島市で自ら何とかするなどの対応が必要。

【部会長代理】 商店街についても病院と同じことが言える。いくら頑張っても購買力は他へ流れる。

【委員】 高齢化が進むのだから、歩いて買い物にいける場所が必要だ。

【部会長代理】 15分で札幌に行ける便利さはあるが、市内で歩いて身の回り品を買いに行くのは大変である。

【委員】 高齢になると車の運転も自由でなくなる。家から駅まで行って、駅からJRを使い、さらに歩くのも大変。やはり、近場に必要となる施設はしだいに増えてくるのではないか。

【部会長代理】 中の沢のマックスバリュ近くの道営団地の住人に聞いた話であるが、

荷物をもって坂を上るのは大変で、車がないと利用できないとのことであった。

【委員】 先日「30km 歩ける会」という行事で市内を回った。北広島団地はすばらしい場所だが、空き家が多いようである。家を出て行った若者が戻ってくる雰囲気のままにしていくことが必要だ。昔のように、2世代、3世代で住むようになれば、北広島は活性化していくと思う。しかし、北広島団地で2世帯住宅を建てるときには、容積率が障害となっている。これを緩和する必要がある。

【事務局】 通常の住宅地では容積率は60%だが、北広島団地では50%である。

【委員】 出て行った人たちが戻って来るためには、リフォームに対して市が支援を行うなども一つの方法ではないかと思っている。結局、北広島市は将来もベッドタウンであるだろう。

【部会長代理】 ベッドタウンは解消できないだろう。

【委員】 医療に関して、大曲では、大曲ファミリークリニックが365日、午後8時まで営業し、かわしま内科も午前7時から午後7時まで営業しているのでまだよいが、市立病院は市の財政が厳しいし、民間もお金がないので、隣の自治体に頼らざるを得ない。

【委員】 大曲地区の住宅は、敷地も広くなく現実的である。

【委員】 1宅地は約60坪である。

【委員】 北広島団地の容積率が50%のままだと2世帯住宅を建てるのは難しい。しかし、住民の合意があれば60%にすることは可能だ。北広島団地では景観や居住環境に配慮して容積率が厳しくなっている。北広島団地の一部では容積率を変更したところがあるのではないか。

【事務局】 容積率を変更したところがある。松葉町では、町内会単位で住民の合意をとり、容積率を60%にした。

【委員】 容積率を緩和すると、まち並みとか生活環境が悪くなる可能性があるので、50%にしておきたいという考えがあるようだ。

【事務局】 北広島団地の景観が良く、住みやすいのは、容積率が厳しいからであるという考えがある。それだけ緑も多くなる。

【委員】しかし、このまま空き家が増えると、廃屋を管理する人が必要になってくる。

【委員】今は厳しい経済情勢なので、建築業者や不動産業者は北広島団地に興味を持たないというか、持つ余裕がない。容積率を緩和すれば、業者は土地を買い取って2世帯住宅として販売するなどの形をとれるらしい。今のままでは、北広島では専門業者は手を出せない。10年前の計画策定するときにも話題になったと思う。団地そのものの機能が低下していないかの点検は必要だと思う。「規制がない宅地」がいいのか「景観などにゆとりのある宅地」がいいのかというバランスの問題ではないか。

【部会長代理】人口減少社会になるので、住宅需要は大きくは増えない。

【委員】北広島団地の容積率は50%であるが、大曲幸地区ではどうか。

【事務局】用途が準工業地域や近隣商業地域、中高層住居専用地域などであれば、容積率は200%である。

【委員】私も親と暮らしているが、親が高齢になってくると、庭の管理ができなくなる。2世帯住宅でないと庭仕事は追いつかない。2世帯で住むようになれば人口も増える。駅周辺の活性化とも関連してくる。駅周辺に託児所などがあれば、子どもを預けて札幌に仕事に行くこともできる。

【委員】市内に住めないから出て行ったのか、2世帯で住むのが嫌だから出て行ったのか。

【委員】働く場の問題が大きいと思う。近くに職がないということで出ていった人が多い。

【委員】2世帯で住むことへの抵抗はないか。

【委員】意外に少ないと思う。

【部会長代理】容積率は町内会単位でまとまれば変更は可能なのか。

【事務局】可能なはずである。

【委員】変更の内容は50%を60%にするだけか。

【事務局】 そうなると思う。

【部会長代理】 行政の力で規制を緩めることはできるのか。

【事務局】 用途地域を変えることになるので、北海道の決定事項である。

【委員】 北広島団地の高齢化の問題と駅周辺整備の話はつながっている。また、市役所庁舎を移転するのであれば、跡地のビジョンも同時に必要である。

【委員】 本庁舎は今の場所から動くべきではない。大曲の工業団地の中に分庁舎を建てるのがよいのではないか。工業団地内の業者の方も喜び、いろいろな面で便利になると思う。

【部会長代理】 市役所の移転でまちの活性化は可能だろうか。市役所は午後5時で終わるものなので疑問である。

【委員】 議会を夜にやればよいのではないか。発想の転換が必要である。職員の勤務は、代休などで対応すればよい。

【委員】 市職員もフレックスタイムは可能だろう。

【委員】 マンションは駅周辺であれば入る人がいると思う。民間を活用してマンションをつくる受け皿を市がつくればよい。

【委員】 駅直結のマンションをつくればよい。駅のホームから一度も外に出ないでマンションに入ることができるような。

【委員】 札幌でも駅直結のマンションは人気がある。民間を活用してマンションを計画すれば、市が税金を使う必要もないのでよい。

【委員】 9月13日の北海道新聞に、若者などが農家にステイする滞在型農村体験（W WOOF）が増えているとの記事があった。いいことだと思う。

【委員】 長沼町ではグリーンツーリズムを活用した農村体験を行っている。東京から修学旅行で来ており、各学校からの評判がよい。

【委員】 この滞在型農村体験は年会費5,500円で、当初150人だったのが、今年の8月

には3,000人に増えている。年代的には20代から30代が多い。滞在期間は1～2週間。北広島市に人を呼んでくるという方向からすると、このような方法は一番近道だ。北広島市や恵庭市というのは、立地条件のよい場所と思う。

【委員】 農業の振興を考える場合は、観光や教育など他の分野との連携など、農業とは異なる価値にどう関連づけていくかが大事な点である。産業としての農業の価値に、もう1つ別の価値をつけていくことが必要。複合的な要素をもたせていく必要がある。

【委員】 工業統計にでている事務所の数は少ないのではないか。

【事務局】 平成19年度工業統計調査は従業員4人以上の事業所を対象としている。

【委員】 4人未満の事業所を含めると、1,000事業所を超える。商工会の会員数は約720くらいだ。

【委員】 市内経済に対する公共事業による影響は大きいと思う。

【委員】 建築業者は厳しい。広島町の時代のほうが良かった。市になって入札をオープンに行うようになったので、北広島市内の業者は勝てなくなった。加えて、全体の仕事量は減っている。北広島は人口の密集度が低い。交通の面などでは高齢になって暮らすにはコストの高いまちである。また、議会でもコミュニティ交通の話が出ているが、どこの自治体も赤字である。

【委員】 かなり昔の話だが、市にハイメックス構想というものがあつた。よい構想であつた。

【委員】 ハイメックス構想というのは、本来的に言えば、今の日本の医療の根幹を形づくれたと思う。アメリカにあるが、肝臓を直す方法などはすごい。

【委員】 夕張の総合病院はどうか。

【部会長代理】 夕張の総合病院は閉鎖した。

【委員】 個人病院になった。

【委員】 予防に重点を置くべきと言われるが、今の保険の制度では、検査には保険は適用できない。

【委員】産婦人科が北広島に来ない理由は、採算が合わないからと聞いたことがある。

【委員】病気にならないと病院に行かない自身のある人が多い。

【委員】北広島団地は人が少なくなっている。子供会の人数も激減している。何らかの手を打たないと、北広島は本当にいいまちなのかという話になってしまう。どうやって人が住みたいと思うまちにするかということだと思う。工場などの産業を持ち込んで、若い人が増えるようにするのか。

【委員】実質的には人口2万人程度のまちというのが現実ではないか。

【委員】バス会社は採算が合わない。

【委員】車に乗る人は少なくなったが、バスに乗る人も少なくなっている。

【委員】バスに乗れない人も増えていく。

【委員】今は低床バスが走っている。

【委員】バス会社に言わせると、1台に常時30人乗っていないとペイしないようである。

【委員】大曲地区は駅周辺などと比較して公共施設の整備が遅れているので、下水道の完備、総合体育館をつくるなど、インフラ整備に力を入れる地域である。

【部会長代理】地域交通システムのあり方について、検討委員会で具体化を目指して、市、利用者、交通利用者、関係機関で実証運行などを行っているが、何か新しい交通システムというのはあるのか。

【委員】結論は出ていない。何年か先の話である。

【委員】市内を循環するバスなどは医療機関とつながるようにするとか、電気自動車を開発する企業に来てもらうなどの方向性があってもよいのではないか。

【委員】リサイクルのバイオディーゼル車などがマックスバリュの辺りを回るような事業を共同でできれば、よい企画かもしれない。岩手県には市で経営しているシャトルバスがある。

【委員】ここは余りにも札幌に近過ぎる。高速道路のインターチェンジのすぐそばという立地条件があるので難しい。

【委員】大曲には「バス代を安くしろ」とか「便数を増やせ」などと言っている人がいるが、言っている本人だってバスに乗らない。

【委員】エルフィンロードは恵庭までつながるようだが、大曲地区につなげる計画はないのか。

【事務局】エルフィンロードは北海道が管理している道路であり、大曲地区につながる部分は、市が整備することになる。

【委員】道央馬追サイクルネットワーク構想というのがあるのか。

【事務局】構想ができています。構想の具体化は南幌町、長沼町、由仁町、栗山町と共同で実施しています。北広島市は、以前から自転車利用環境整備モデル都市になるなど、サイクリング・ネットワークづくりに力を入れてきた。エルフィンロードだけではなく、南空知方面とも連携していきたいと思っている。

【委員】北広島市単独では対応できないので、道路、サイクリングロード、医療、水道など、近くの市町村との連携で進んで行くことになるのか。

【委員】連携は必要である。

【委員】今は、ビジョンのある地域にお金がかかる時代である。

【部会長代理】バス会社にしてもタクシー会社にしても最後は採算を考えざるを得ない。そこに行政の支援を頼む部分がある。2世代や3世代同居世帯を入れるようにして人口を増やしていくことを考えないといけない。

【委員】道営住宅などの集合住宅の建替えは、実際に動いているのか。

【事務局】動いている。

【委員】スラム化してきているという話を聞いたが、実際空いてきているのか。

【事務局】輝美町の団地では、政策的に一部を空き家になっている所がある。

【委員】 2つの部屋を1つにするなどの対応があるらしいが。

【事務局】 実際にやっている。

【委員】 駅から歩いて15分以上かかる場所は戸建て住宅の意向が強く、一方、15分以内の場所は集合住宅のニーズが多い。道営住宅を建替えるのであれば、戸建てにしたほうが、税金を使わなくて済み、市にとってはメリットがあるのではないか。

【事務局】 公営住宅には、低廉な住宅を提供するという意味もある。

【委員】 新しくなれば、入居希望者は多いのか。

【事務局】 そう思う。

【委員】 札幌市では、集合住宅から戸建住宅に切り替えた団地がかなりある。歩いて15分以上のところは戸建住宅への流れがある。

【事務局】 道営住宅では、輝美町団地の建替えが当面の課題だと思う。

【委員】 輝美町団地は北広島団地の景観からすると良いものではない。

【委員】 北広島団地は古くなって人がいなくなっている。大曲地区ではそういう問題はない。対照的である。

【事務局】 将来的には他の住宅団地でも北広島団地と同じような傾向になる可能性がある。

【委員】 大曲地区の南ヶ丘は、容積率200%で、2世帯住宅は建てやすい。

【委員】 建替えやまち並みを変えることについては、規制が緩いので大曲地区のほうが行いやすいと思う。北広島団地は規制がきつく、手も足も出ない。まち並みが大切であるならば、高さ制限や色制限など別の方法で規制するほうがいい。それよりも、人が張りついてくれるような環境をつくるのが大事だ。

【委員】 生活環境としては排雪の問題が大きいと思う。除排雪をどうにかしないと、恵庭市や千歳市など雪の少ない地域に人が流れてしまう。

【部会長代理】 団地の再開発を考えるのであれば、規制を緩和する方向で考える必要がある。

【委員】 今のままでは売れない。

【部会長代理】 廃屋になっていくと、草が生い茂って危ない。

【委員】 駅周辺に分譲マンションというか、高齢者施設などを建てて、そこに移転していただけるような方策を考えていく必要がある。

【委員】 必ずしも建物全体がマンションでなくてもよい。

【委員】 商売する側からいうと、ある程度まちの形ができて、人の循環ができるようになれば、常設のお店でなくても商売は成り立つと思う。移動販売車でもよいし、どこかに場所を借りて、週に数日、そこで物販を、注文を聞いて配達するなど。今の状況では、それすらできない。

【委員】 西の里団地には今も江別市からトラックが来て色々なものを売っている。

【委員】 今はインターネットで申し込むと配達してくれる。ただし、高齢者はインターネットを使ってといっても難しい。

【部会長代理】 東急ストアでも宅配をしているが、客が少ないと商売にならない。

(3) 水道、下水道について

【部会長代理】 上下水道の問題はどうか。

【委員】 大曲地区では下水がっていない地区がある。早急に下水を入れるようお願いしたい。

【委員】 市街化調整区域にならないとできないなどの制約がある。私の住んでいる地域は、今年やっと市街化区域になって、下水道の本管がつながって、水洗になるが、まだ終わってないところもある。

【事務局】 下水道普及率は約95%である。

【委員】 民間で開発した住宅団地は下水道が整備されている。私の住んでいる地域は

かなり古いが、整備は全部終わった。

【委員】 水道はそう大きな問題ではない。

【委員】 水道では、これまでは人口が増えてきたので水道料金は値上がりせずに済んだが、今後人口が少しずつ落ちていったらどうなるか分からない。

【委員】 北広島団地内の古い管は一部水漏れしている。一番新しく造成したところでそのようなところがある。できるだけ早く改善してほしい。

【事務局】 前回の部会で、バイオマスの話があった。市では、平成23年を目処に家庭の生ごみを下水処理場で処理する計画になっている。その2年後には、道央環境衛生組合で処理している「し尿と浄化槽汚泥」を下水処理場で処理する予定である。組合の施設は相当老朽化していることから、そこでの処理をやめて、下水処理場にもってくる。発生するガスは処理施設で活用する計画である。また、汚泥を乾燥して、肥料として農地に還元することも継続する。

【部会長代理】 し尿処理は長沼などの市町村と共同か。

【事務局】 し尿処理は、長沼、南幌、由仁、北広島で共同である。

【委員】 し尿の話はバイオガス化になってからということか。

【事務局】 生ごみのほうはもう動き出している。し尿はその後である。下水と同じルートで処理し、そこで発生するガスは処理場内で使われる。そして、今までどおり、乾燥汚泥も肥料化して緑農地に還元する。

【委員】 その技術を他の事業所でも活用すれば、悪臭問題の解決につながるのではないか。

【委員】 将来的にも、量的に十分処理できるということか。

【事務局】 そうである。

【委員】 北広島の場合は、上下水道に関してはそう大きな問題はないと思う。

【事務局】 水道は企業会計であり、下水道は特別会計になっている。

【委員】 ごみの有料化によって入る収入にはごみ処理に使わないといけないという縛りはないのか。たとえば、市民のごみ分別の啓蒙運動や美化運動に使う、リサイクルセンターを建てるなど。

【事務局】 リサイクルセンター整備は現在行っている。

【委員】 ごみの有料化によって入る収入はごみ処理に全部収入を充当したって何%にもならないと思うので、市民がごみを出さない認識になってもらわないといけない。

【部会長代理】 水源の確保はどうか。

【事務局】 現在、漁川水系でとっている。シューパロダムという新しいダムができ、そこで確保した水量を振りかえる形で、千歳につくる浄水場で確保されている。量的には十分である。

(4) 火葬場について

【委員】 火葬場の建替えの問題について、札幌市清田区にある里塚の火葬場を北広島市の住民が使用する場合は料金が高くかかる。火葬場建設にかかるであろう費用の分を札幌市に支払って、里塚の火葬場を共同利用するのはどうか。札幌市では手稲区に火葬場をつくっている。今後は手稲の利用が増えるので、里塚は空くのではないか。

【事務局】 例えば新しく火葬場つくるときや建てかえるというときに、そういう話を最初から行っていれば可能であったと思う。その分、建設分も負担するなどになる。ただし、北広島で建てかえる分だけの金を払えば済むという問題ではない。受け手の余裕などの問題もある。

【委員】 広域的に検討する余地はある。

【部会長代理】 現在、市の火葬場の建替えは行っているのか。

【事務局】 行っていない。

【委員】 遺族へのサポートが重要である。北広島市で火葬場を持つにしても、利用者は里塚並みのサービスを求めているはずである。

【委員】 維持費や建設費と委託料との比較になってくる。

(5) 河川について

【委員】 輪厚川の汚染度は定量的に分かるのか。

【事務局】 把握している資料はある。

【委員】 輪厚川は、可能であればどこよりもきれいにしたほうがよい。子ども達が川遊びできる川であってほしい。中の沢付近の水質がよくないように感じた。大曲方面に向かって道路の左側だ。

【部会長代理】 清掃をしていないのかもしれない。

【委員】 北広島団地の法面から金属の錆のようなものが出ている場所がある。

(6) 都市景観について

【部会長代理】 都市景観についてはどうか。

【委員】 道路をつくるときに、道路わきに花を植えるスペースを作るなどすれば、住民参加のまちができると思う。

【委員】 北広島団地の外周道路の草取りを行うときに、農薬の話をする则みんな毛嫌いするが、正しい利用方法で一度農薬を使うと、その後の手入れが非常に楽になる。

【委員】 花は駄目にならないのか。

【委員】 きちんと正しく使用すれば大丈夫。1回の処理ですごく楽になる。

【部会長代理】 今の農薬というのは、クローバーだけをやっつけるだとか、オオバコだけをやっつけるなど、進んできているようである。

【委員】 住宅地の道路は8m幅が多いが、8mと10mでは排雪の必要性が異なる。8mの場合は、ひと冬に1～2回の排雪が必要になる。歩道に緑地を作っておけば排雪回数を減らすことができる。10m幅にすれば排雪しなくてよいと思う。

【委員】 官の発想でいけば10mでもよい。

【委員】 市が方針を立てて進めてくれれば、雪に強いまちづくりができると思う。法律上もそれは可能だと思う。

【部会長代理】 資料で違反屋外広告物の簡易除去について触れているが、違反広告物は多いのか。

【事務局】 特別多いわけではないと思う。

(7) 情報化について

【委員】 情報化に向けたインフラ整備は大丈夫か。インターネットを含めて、大容量の通信に対応できるようになっているのか。

【事務局】 光ファイバーなどのことか。

【委員】 たとえば、大曲地区をサポートする場合、一回一回本庁に来なくても、あらゆる許認可事務が大曲の窓口でカメラを使って本庁舎の担当者とやりとりできるとか、あるいは学校とやりとりができるみたいなことである。

【事務局】 回線を太くするとか、そういう基盤的なことを市が直接的にやっているということはない。

【委員】 人口密度の低いまちなので、3つの分庁舎を持つよりは、そういうものを活用した整備の方向性がよいのではないか。

【事務局】 それも一つのあり方だ。

【委員】 情報技術の活用により、庁舎や病院、学校などを結びつける方向性を持つのがよいのではないか。そうすれば人がわざわざ動かなくても、十分にこのまちの行政ができる。交通関係も最小限で動く。

【委員】 これからは防災関係のインフラがしっかりしていないと、いざというときに困る。

【部会長代理】 高齢化に対応して、自宅で健康チェックができるような利用方法があればよい。

【委員】 最終的にそこまでいけば立派なものである。

【委員】 その構想については、栗山町がもう20年ぐらい前から取り組んでいる。栗山町では、テレビを活用して、非常時の際に安否の確認ができるようにインフラ整備を進めている。議会もテレビでやったら、出張旅費を払わないで在宅でできる。きっと栗山も、そういういろいろなベースがあるから夜の議会を提唱している。

(8) 都市像に関するキャッチコピーについて

【部会長代理】 キャッチコピーについては、各自の考えを9月30日までに事務局にファックスなどで送付していただきたい。

4 今後の日程

次回（全体会議）の日時は10月6日火曜日、開始時間は18時30分から、場所は芸術文化ホールです承された。

5 閉会